

目的 赤ちゃんへのイメージはどのように作られ、それが実際の育児にどのように関係しているのだろうか。前報において、独身時代の赤ちゃんとの接触経験の有無がどのようなイメージと関係しているのかをみた。本報において、自分の両親との関係によって赤ちゃんイメージがどのようにことなるかを明らかにしようとした。

方法 妊婦健診に来院した妊婦292名、高校男女生徒268名を対象に、質問紙法により調査を実施した。

結果 (1)自分を父親っ子・母親っ子とする男子生徒6%, 14%, 女子生徒12%, 23%, 妊婦19%, 33%であった。(2)将来自分の父親のようになりたいとする男子生徒26%, 母親のようになりたいとする女子生徒24%であった。(3)夫が自分の父親のような父親になって欲しいとする妊婦42%, 自分が母親のようになりたいとする妊婦は67%であった。(4)高い得点をえたイメージは、妊婦では「愛らしい」「やわらか」「いとしい」であり、高校生では「よく寝る」「よく泣く」「愛らしい」であった。(5)プラスイメージは妊婦が、マイナスイメージは高校生が高い得点を示した。(6)父親っ子・母親っ子別にみると、妊婦・高校生ともいづれのイメージ項目にも明らかな差はみられなかった。(7)父親・母親を将来の予本とする者とそうでない者では、妊婦においては、いづれのイメージ項目も予本とする者の得点が高く、2項目で有意差がみられた。(8)高校生においては、妊婦のよりに明らかな差はみられなかった。